

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671500241
法人名	医療法人 緑風会
事業所名	グループホーム 成長苑
所在地	徳島県板野郡藍住町勝瑞字成長55-1 (電話) 088-683-3335

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年6月18日

## 【情報提供票より】(平成 20年 5月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	10 人 常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 1ユニット 5.6人, 2ユニット 5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	その他実費
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要( 5月 30日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	82 歳	最低 63 歳	最高 90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	森本医院
---------	------

徳島県 グループホーム成長苑 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームのすぐ前は広い公道に面し、スーパー、小学校、民家、神社等も近く活気があり、買い物などに出かけやすい環境である。開設後9年が経過し、利用者と職員は長年ともに暮らす家族のような関係が築かれ温かい雰囲気である。室内は掃除が行き届き、清潔で年月を感じさせない。前庭では四阿(あずまや)のベンチでおやつを食べながら、外気浴をしたり、庭の一部を菜園にして季節の野菜を栽培するなど、いこいの場として活用している。また、桜や梅、もみじなど季節を感じさせる樹木も植えられている。最近地域の方々からいろいろな行事に参加のお誘いを受け、交流の輪が広がりつつある。また母体が病院なので医療との連携が24時間可能なため、重度の人も安心して暮らせる体制にある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善されたことは地域との付き合いが運営推進会議等を通して広がりを見せたこと。また、金銭出納簿への家族確認印が取られたことである。改善されていないことは、理念の見直しや職員を育てる取り組み、栄養に関する専門的な視点からのチェック、災害対策での地域住民の参加などで改善課題として残されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は自己評価の意義を理解し、各ユニット毎に全職員で何回も話し合いを行い、取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1回の開催である。会議では利用者状況や行事、外部評価とその後の取り組み、地域との交流状況などが報告され、参加者からは食中毒の予防対策や感染症の予防などについての助言や意見があった。また、設置基準のスプリンクラーの取り付けなどについても今後の義務化に向けて検討するなど話し合われている。構成メンバーは地区民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者、職員となっている。運営推進会議を通して地域とのつながりができ、小学校の田植えの見学や老人会の行事への参加、保育園の餅つきなどいろいろな取り組みとして広がりをみせている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時は必ず職員側から話しをするようにして、意見や苦情、要望などを聞かせてもらうように心がけている。また、運営推進会議にも参加を呼びかけ、意見を聞く機会を多く持つようにしている。出された意見や苦情などは申し送りノートに記録し、全職員で情報を共有し対応できるようにしている。その他に玄関には意見箱を設置している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くの小学校の田植え体験の見学や5~6年生の来訪時に劇を披露してもらったり、折り紙を折ったりするなど交流を続けている。また、運営推進会議に参加している地域の人を通して、幼稚園や地区協、児童館や老人いこいの家などの様々な行事(運動会・鈴虫の家作り・獅子舞・餅つき)にお誘いを受ける機会が増え、参加することで地域との交流が深まっている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成された独自の理念であり、地域を視野に入れたサービスを行っているが、職員間での見直しや話し合いができていない。	○	地域の中でその人らしく暮らすことを視野に入れた地域密着型サービスとしての理念について職員間で話し合われ、検討し見直しされたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の定例ミーティング時に職員間で確認しているが、地域密着型サービスとしての理念が作成されていない。	○	早急に地域密着型サービスとしての理念を見直し作成され、理念の共有、実践に取り組まれたたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に参加された方を通して、今までの交流以上に老人会や地域の行事に参加する機会が多くなり、地元の人との交流の輪が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員ともに評価の意義を理解している。具体的な改善については地域との交流や金銭出納簿への家族の確認印など、できることから少しずつ取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は事業所の生活状況や行事、外部評価とその後の取り組みなどの報告と、参加者から質問や意見、助言等を出していただき、サービスの質の向上につなげている。記録も作成し、職員の確認印もある。しかし、3ヶ月に1回の開催である。	○	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要書類の定期的な提出の他、町内の在宅生活者が新しく利用される場合など、十分な話し合いによる連携をとりながらすすめている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時は職員から声をかけるようにし、本人の生活状況について話し合いをしている。金銭を預かっている人には出納簿に家族からの確認印をもらっている。また、『成長新聞』を年4回発行し、日頃の生活ぶりをスナップ写真等で紹介し家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット毎の入口に外部の公的相談窓口の張り紙をし、外部へ相談できることも知らせている。また、家族の来訪時には意見や不満など何でも言ってもらえるように職員から声かけをしている。出された意見等をミーティング時に職員で話し合い運営に活かしている。玄関には意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないが、離職者のあった場合に、利用者が不安にならないように、引継ぎ期間を十分とれるよう配慮したり、残る職員でカバーし合うよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的に自費で研修を受けている人はいるが、事業所として研修計画に基づく内部研修も外部研修もほとんどできていない。	○	職員研修計画を立て、計画的に研修の機会を確保し、職員を育てサービスの質の向上を目指されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国高齢者グループホーム協会県支部に加入しているが、交流活動などはできていない。	○	協会の主催する勉強会等に参加し、交流の機会を活用しサービスの質の向上に取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しく入居される人については家族とも話し合いをしながら、今まで本人が使っていた好みのものや家族の写真等を持ち込み安心して生活できることを伝え、面会を通して職員と顔馴染みの関係と信頼づくりを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に職員は利用者の一つの家族のような温かい雰囲気づくりに努めており、ともに生活し学びあう関係をつくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で常に声かけしながら希望や意向を聞きとるようにしている。言葉で十分表現できない人は表情をよく観察して思いを受けとめるようにしている。家に帰りたいと望む場合は、一緒に外出して自宅まで行き、気持ちが落ち着くように本人本位に関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月担当者会議を開き、一人ひとりの心身の状態を話し合い、毎日の気付きや課題点の記録なども踏まえ、それらを反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は定期的に見直し、変化がみられた時や必要と思われる場合は、随時話し合いにて現状に即した見直しを行い再計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の整備により24時間医療との連絡が図れ、健康面で安心な生活の継続を支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院のみならず、病状や家族、本人の希望により馴染みの医療機関の受診にも対応して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の関わりについては、本人や家族と契約時の段階からケアの方針について話し合いをしている。また、かかりつけ医と医療の対応等について常日頃から連携し、方針の統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書と重要事項説明書に明記され、プライバシーの確保や個人情報の取り扱いについては秘密保持が徹底できている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はないよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れは決めているが、一人ひとりの心身の状態や希望により利用者のペースを大切に、その日の過ごし方を調整し対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入や調理(豆のすじ取り)、下げ膳や食器洗いなど利用者の能力に合わせて一緒に行っている。畑で採れた野菜を食材として使用することもある。介助を必要とする利用者が多くホーム長以外と一緒に食べる難しいが、嚥下や咀嚼状況を見守りながら安心して食事できるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回だが、汗をかきやすい夏はシャワーにて毎日清潔を保てるようにしている。車椅子で湯船につかれない利用者には訪問入浴用のお風呂を用いるなど対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年培ってきた生活の中で出来る草取りや洗濯物たたみ、掃除機かけなどの役割を支援している。また、折り紙やぬり絵、壁飾りの作成など趣味を活かして喜びにつながる日々が過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前庭や近所の神社への散歩、また、食材購入時の外出、自分のほしい物の買い物など希望にそって出かけている。週に1度車で遠出し、バラ園や外食に出かけるなど戸外に出る支援が日常的に行われている。		
<b>1. 理念と共有</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則的に玄関の鍵はかけていない。利用者の様子がいつもと違う場合は見守りを続けたり、一緒に車で外出したり、家に電話をかけるなどで気分転換を図るようして、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、通報訓練、消火器の使い方など年2回実施し、事務所には避難経路図や緊急連絡網を掲示している。重度化している利用者の避難方法やホーム内での避難場所は消防署と話し合っているが、地域の人々の協力が得られる体制や働きかけはまだできていない。	○	事業所だけの訓練でなく、地域の方々の参加や協力を呼びかけて、災害時に協力が得られるよう働きかけられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やミキサー食、食が進まない利用者には栄養補助食品や手作りプリンなどで補うようにし、利用者の状態に合わせた支援をしている。また一人ひとりの食事摂取量や水分量の把握ができており記録もとれている。糖尿病の人に対しては医師の指示を受けているが、普通食の人に対する栄養の専門的な観点からのチェックができていない。	○	栄養バランスの把握など栄養士等の専門的な人の助言を受けられるよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはグラジオラスの生花が飾られ、玄関正面の壁面には梅雨を表現したカタツムリなどの飾り付けで季節感や生活感を表現している。また不快な音や光はなく、換気もおいごもらないよう窓を開けて配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はベッドと床頭台が備え付けられている。ほかにテレビや鉢植えの花、また、家族の写真を壁に貼ったり、敷物を敷いたりして、自分の使い慣れた物を持ち込み、自分らしい部屋づくりをされている。		